

経済・金融フラッシュ

No.07-088 2007/10/24

貿易統計 07年9月～7-9月期の外需は成長率を大きく押し上げ

ニッセイ基礎研究所 経済調査部門 シニアエコノミスト 斎藤 太郎

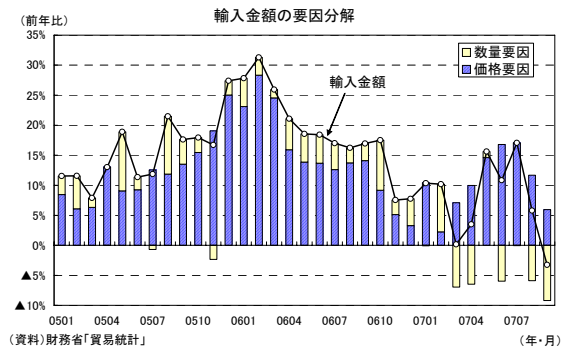
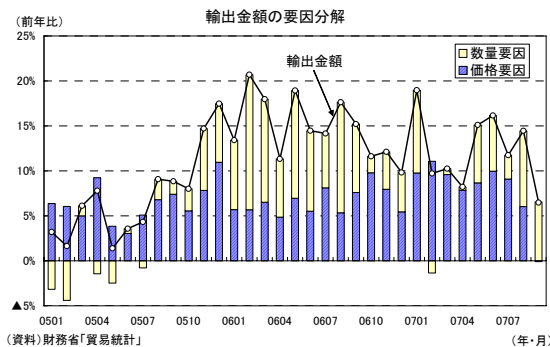
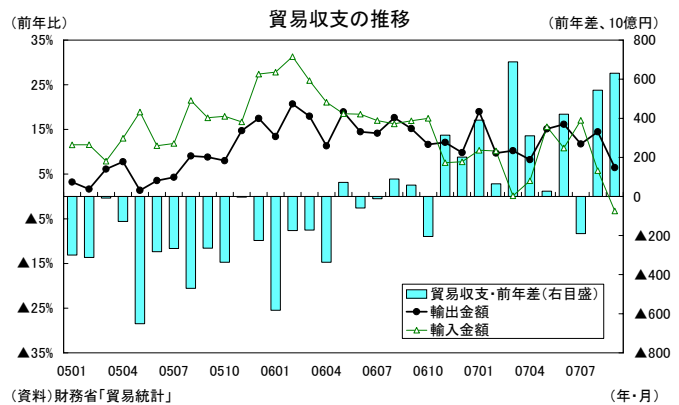
TEL:03-3512-1836 E-mail:tsaito@nli-research.co.jp

1. 貿易収支は2ヵ月連続で改善

財務省が10月24日に公表した貿易統計によると、9月の貿易黒字は16,378億円（前年比62.7%）となり、市場予想（ロイター集計：14,810億円、当社予想は13,108億円）を上回った。輸出の伸びは前月よりも鈍化したが、輸入が2004年2月以来の前年比マイナスとなったため、貿易収支は前年よりも大きく改善した。

輸出数量（8月：前年比8.2%→9月：同6.6%）、輸出価格（8月：前年比5.8%→9月：▲0.1%）の伸びがともに前月よりも鈍化したため、輸出金額は前年比6.5%（8月：同14.5%）と5ヵ月ぶりに一桁の伸びにとどまった。

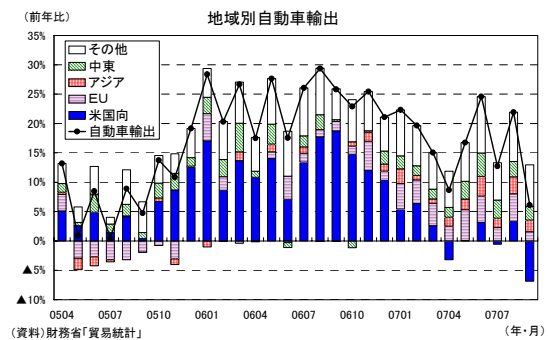
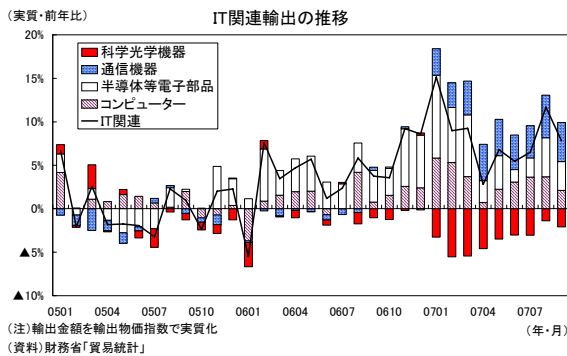
一方、輸入金額は、輸入数量が前年比▲8.9%（8月：同▲5.6%）と減少幅が拡大したことに加え、円高の進展などから輸入価格も前年比6.2%（8月：同12.0%）と伸びが大きく低下したため、前年比▲3.2%（8月：同5.8%）と減少に転じた。ただし、輸入数量の減少は、今年9月の休日（土日）数が昨年よりも2日多かったため、通関日数が少なかったことも影響している可能性があることには留意する必要がある。



2. 米国向け輸出の減少幅が再拡大

輸出の内訳を見ると、IT 関連品目では、科学光学機器（前年比▲12.4%）、コンピューター・部分品（同▲2.6%）が減少したものの、通信機（同 103.0%）が急増し、コンピューター（同 9.9%）、半導体電子部品（同 6.1%）も増加したため、全体では堅調を維持した。国内の電子部品・デバイスの在庫は依然高水準にあるものの、出荷・在庫バランスは着実に改善に向かっている。IT 関連輸出の増加は在庫調整の進展を後押しする要因となっている。

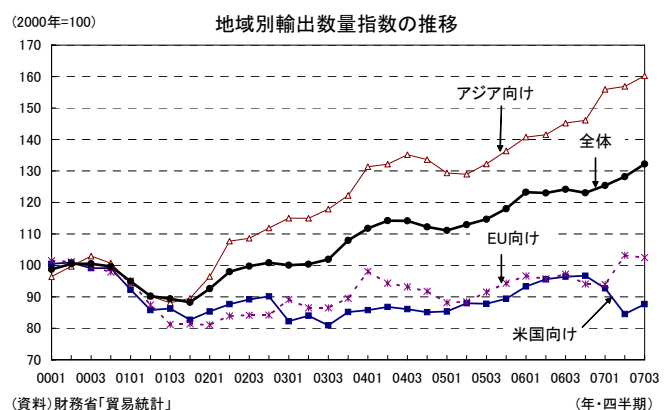
自動車輸出は前年比 6.1%と 8 月の同 21.9%から伸びが大きく低下した。EU 向け（前年比 11.7%）、アジア向け（同 31.7%）、中東向け（同 28.2%）等は引き続き高い伸びとなったが、米国向けが前年比▲15.2%と 8 月の同 8.1%から減少に転じた。



輸出数量を地域別に見ると、EU 向けが前年比 9.7%（8 月：同 4.6%）と伸び率が拡大し、アジア向けも前年比 7.8%（8 月：同 13.1%）と堅調を維持したが、米国向けが前年比▲11.8%（8 月：同▲5.2%）とマイナス幅が再拡大した。

7-9 月期の輸出数量指数を季節調整値（当研究所による試算値）で見ると、米国向けが前期比 3.7%、EU 向けが同▲0.7%、アジア向けが同 2.2%、全体では同 3.2%となった。4-6 月期は米国向けの落ち込みを EU 向け、アジア向けがカバーする形となっていたが、7-9 月期は米国向けの伸びが最も高くなった。しかし、米国向けの輸出数量は 4-6 月期には前期比▲8.8%と大きく落ち込んでおり、7-9 月期の伸びはその半分にも満たなかった。米国向け輸出は依然低迷していると判断される。

また、米国経済は住宅市場の急速な





悪化が続いており、個人消費はこのところ持ち直しているものの、自動車のインセンティブ販売拡大という一時的な要因によるところも大きく、基調は決して強くない。米国経済の減速傾向はしばらく継続することが見込まれるため、米国向け輸出の回復は 10-12 月期もあまり期待できないだろう。

3. 7-9 月期の外需は成長率を大きく押し上げ

9 月までの貿易統計と 8 月までの国際収支統計の結果を踏まえて、07 年 7-9 月期の実質 GDP ベースの輸出入を試算すると、輸出が前期比 4% 程度、輸入が同 1% 台となった。外需寄与度は 4-6 月期には前期比 0.0% と横ばいにとどまったが、7-9 月期は前期比 0.4% ~ 0.5% 程度の大幅なプラスとなり、経済成長率を大きく押し上げよう。